

インターネットでバーチャル農業 田植えと稲刈りは親子で体験

五月二十日、角田市鳩原で仙台市などから集まった六家族十九人が、田植え作業を行いました。これは、公社がインパク（インターネット博覧会）の宮城県パビリオンの農業体験コーナーにバーチャル農業「チャレンジ稲作」として参加。インターネットを通じて田植えの準備作業から収穫作業までの様子やインターネットの生育状況を発信し、農業を疑似体験して頂こうとEメールで募集したものです。

ほ場は、渡辺誠さんの二十坪で、作付け品種は「ひとめぼれ」。この日、田植えに挑戦した参加者は、地元の三品孝彦区長を始め、渡辺さんやあぶくまACC（渡辺一郎会長）の皆さんから



▲初めての田植えで泥だらけ



▲田植機を運転する
お父さんも真剣

▶ 植えた場所に
それぞれの看板を設置



の指導を受けながら、手植えや機械植えを体験しました。初めての田んぼに足を取られ、尻もちをついたり、泥だらけに歓声を上げ走り回る子供で、賑やかな田植えとなりました。また昼食には、早苗ぶりとして餅つきを行い、子供たちも自分でついた餅に舌鼓を打っていました。最後に家族ごとの看板を手立て作り、自分の植えた場所に再会するのを楽しみました。

角田産米を使い新しい地酒を発表

4月25日、角田産米を100%使用した新しい地酒4銘柄の発表会がジュネス我妻で行われました。発表会には、コメの生産者、消費者、関係機関等約300人が出席。発表された新酒をそれぞれ試飲し味や香りを楽しみました。新酒の発売を手がけたのは、市内の農・商・工業関係者と消費者でつくる「地酒用地場産米消費拡大推進協議会」（岸浪俊一会長）。公社の戦略委員である岸浪会長は、「角田の新しいブランド商品として位置づけ、さらに多くの商品を開発したい」と話していました。



▲農・商・工・消が一体となって成果を発表

田んぼの様子や稲の生育状況は、
ウェブマガジンあぶくま農学校
(<http://www.kakunou.or.jp>)
田んぼに入ろう **チャレンジ！稲作** の
「あぶくま通信」をご覧ください。

あぶくま通信

このコーナーでは、あぶくま農学校の紹介や研修レポート、稲の生育状況をお知らせします。

あぶくま農学校の紹介
五城里内田市の紹介
稲作年間のスケジュール
減農薬・減化学肥料栽培の紹介
田んぼの管理と紹介
田んぼの様子
研修レポート